

「性感染症」について

ほけせん便り 254 号

東京外国語大学 保健管理センター

学校医 山内康宏

2025 年 11 月 14 日

大学生の生活は、自らで生活スタイルを選択し、自身で行動を決定し、その行動に責任をもつ大切な時期です。と同時に、自らの行動は今後の健康にも影響し、健康や将来について真剣に考える時期でもあります。性感染症（Sexual transmitted infections: STI）は誰しも感染する可能性があり、感染したまま放置しておくことで将来の健康や妊娠・出産にも深刻な影響を及ぼす可能性もあります。STI について正しい知識を持って、自分の体と大切な人を守りましょう。性感染症は、これまで「STD (Sexual Transmitted Diseases)」という略語が使われてきましたが、多くの性感染症で自覚症状がない段階でもその感染を拡大させてしまうことから、症状が出現した状態（diseases としての STD）ではなく、症状が出現するよりも早期の段階での感染症としての対応を含めた概念として STI という略語が用いられるようになっていきます。

STI は、主に性行為や性行為に類似するような性的接触により、性器や口腔・肛門等の粘膜や皮膚から感染し、ヒトからヒトに感染します。STI の病原体は、細菌、ウイルス、真菌、原虫、寄生虫等とさまざまであり、また同時に複数の病原体に感染する可能性があります。また、性別や年齢等も関係なく感染する可能性があります。主要な STI には、「梅毒」・「性器クラミジア感染症」・「淋菌感染症」・「性器ヘルペスウイルス感染症」・「尖圭コンジローマ」・「膣トリコモナス症」・「ケジラミ症」・「性器カンジダ症」・「B 型肝炎」・「C 型肝炎」・「HIV 感染症／後天性免疫不全症候群（エイズ）」等があります。特に、これらの中でも近年「梅毒」の発生数の増加が報告されています。

STI の潜伏期間、症状、検査や診断、治療法は、各病原体により異なります。各種の STI に関する詳細な情報を知りたい方は、国立健康危機管理研究機構の感染症情報提供サイト（外部サイト）等の専門的な web サイトを参考（下記）にしてください。

STI の一般的な検査は、医療機関（泌尿器科・婦人科・皮膚科等）を受診して診察を受け検査を受けることができます。検査（内容等）はその症状や各感染症によって異なりますが、血液検査や視診、尿検査、おりものを採取した検査等となります。「STI に罹患したかも？」とその可能性を考える場合や不安を感じる場合は、STI に感染しても無症状であることも多いので、早めに相談をしましょう。なお、病原体によっては感染しても検査結果が陽性に出にくい期間がありますので、結果が陰性であった場合でも一定期間の後に再検査を行うことがすすめられることもあります。また保健所では、匿名・無料で梅毒・HIV 等の性感染症の検査を受けることもでき、保健所によっては同時に性器クラミジアや淋菌検査を受けることもできます。

STI の治療は、感染症の種類によって異なりますが、多くの場合は治療ができます。医師の指示に従い、適切な期間、適切な治療を継続することが大切です。特に早期の段階に適切な治療を完了させなければ合併症や後遺症があるものがありますので、早期発見とその治療を完遂することがとても重要です。加えて、パートナーともよく話し合い、パートナーの方も必ず検査を受けるようにしましょう。STI の治療を完遂してもパートナーが感染していて未治療の状態では、STI に再感染することになるので、「ピンポン感染」を生じないように、パートナーと同時に治療を行う必要があります。

STI から身を守るための予防策は、コンドームを適切に使用すること、そして定期的に検査を受けることや早期に検査を受けることなどが挙げられます。特にコンドームを使わない性行為や不特定多数や複数のパートナーとの性交渉がある場合等は、STI に感染する危険性が高まるとされています。なお、コンドームは性感染症を予

防するのに非常に有効な手段ですが、100%防げるわけではありません。適切なコンドームの使用により、予防できる感染症（クラミジアや淋菌、HIV 等）もありますが、コンドームで覆いきれない部位分から感染するような感染症（梅毒や性器ヘルペス・尖圭コンジローマ等の直接接触で感染する）等は、完全に防ぐことはできません。

また、世界エイズデー(World AIDS day)の 12 月 1 日 (WHO により制定) は、世界規模でのエイズの蔓延の防止、患者や感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、世界各国でエイズに関する啓発活動 (Red Ribbon) が行われます。また東京都でも 11 月 16 日～12 月 15 日をエイズ予防月間として啓発活動が広く実施されますので、これを機に、ぜひご確認ください。

何かご不明な点等ありましたら、保健管理センターまで、どうぞご相談ください。

参考文献・参考 URL

#1 「性感染症」：厚生労働省

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/index.html

#2 「性感染症」：国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/route/std/index.html>

#3 STI: Centers for Disease Control and Prevention

<https://www.cdc.gov/sti/index.html>

#4 世界エイズデー

<https://worldaidsday.org/>

#5 東京都エイズ予防月間

https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/info/aids/aids/yobo_gekkan/whats_yobo_gekkan